

国の機関等による向こう5年間の国際会議等の北海道開催計画(令和7年度～11年度)

	年度	会議名	主催者	開催時期	開催場所	会議の概要	会場での参加人数
1	R7	Symposium of the US-Japan Science and Technology Cooperation Program 2025	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	令和7年5月12日～14日	札幌市	日米科学技術協力事業高エネルギー物理学分野に関するシンポジウム。	60名程度
2	R7	第20回 ICAO AIS-AIM実施タスクフォース会議(AAIF/20)	国土交通省	令和7年6月9日～13日	千歳市	アジア・太平洋地域における航空情報業務について、デジタルデータによる提供・交換への移行を支援するための会議。	50～100名規模
3	R7	第34回光子電子原子衝突に関する国際会議/the 34th International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions	ICPEAC XXXIV 組織委員会	令和7年7月29日～8月5日	札幌市	光子・電子・イオン等の衝突について公開講演、基調講演やポスターセッション等を行う国際シンポジウム。	700名程度
4	R7	FHS International Conference	北海道大学大学院保健科学研究院	令和7年夏～秋	札幌市	海外の研究者の招待講演及び大学院生のポスターセッションをメインとする国際シンポジウム。	250名程度
5	R7	IMDRF (International Medical Device Regulators Forum)2025年9月会合(仮称)	厚生労働省及び及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構	令和7年9月中旬を予定	札幌市近郊	日本、米国、欧州連合(EU)、カナダ、オーストラリア、ブラジル、中国、ロシア、シンガポール、韓国、英国の11か国・地域の医療機器規制当局より成る医療機器の国際規制整合化及び協力を進めるフォーラム。	250名程度
6	R7	HBD(Harmonization By Doing)East 2025 Think Tank Meeting(仮称)	厚生労働省及び及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構	令和7年9月中旬を予定	札幌市近郊	HBDとは、日米における医療機器に関する規制について、実践を通して整合化を図ることを目的とした、日米の官・学・民による共同の活動。日米交互に年1回程度HBD Think Tank Meetingを開催。	200名程度
7	R8	INTERPRAEVENT2026(国際防災学会・インターイベント)	環太平洋インターイベント2026実行委員会、環太平洋インターイベント協議会	令和8年10月20日～23日	札幌市	毎年の学術研究活動等に加え、インターイベントシンポジウムをヨーロッパと環太平洋地区でそれぞれ交互に定期的に開催して研究成果等を発表。	500名程度
8	R9	Arctic Science Summit Week 2027(ASSW2027)／北極科学サミット週間2027	International Arctic Science Committee (IASC, 国際北極科学委員会) 現地ホストとして海洋研究開発機構、北海道大学、国立極地研究所、函館市ほか	令和9年4月12日～20日	函館市	IASCが毎年春に開催する北極研究に関する世界最大の国際会議。IASCの5つの作業部会(大気・雪氷・人間と社会・海洋・陸域)と評議会および関連団体に関する年次会合をまとめて開催。合わせて、隔年で科学シンポジウムもしくは北極観測サミットを実施。	300名程度
9	R11	第22回日中冬期道路交通ワークショップ	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所、一般社団法人北海道開発技術センター、東アジア交通学会	令和11年	札幌市	日本と中国における道路構造物や冬期道路交通に関する意見交換を目的とするワークショップ。	50名程度

※ このほか、向こう5年間(令和7～11年度)に、北海道で開催する可能性のある国際会議等が9件ある。

※ 1、2は令和7年7月24日現在において開催済み。

※ 国が関与する国際会議等(各省庁(外局等を含む)主催の会議のほか、他の省庁・民間団体等との共催や各省庁が所管する特殊法人等・独立行政法人が主催する会議も含む。)で、参加国数は日本を含む2カ国以上、会場参加者数は外国人を含めて10名以上が見込まれる国際会議等について記載。

出典: 国土交通省北海道局調べ